

子どものセーフガーディング連続研修 2023



子どものための活動を行う団体は、安心・安全な環境を整えるためにさまざまな努力を重ねているはずですが、しかし、支援・育成する立場にあるスタッフの不適切行為により、子どもの権利が侵されるといった問題が知られるようになり、各団体に予防や早期発見などの対策が求められています。自団体でも取り組みを始めたいのだけど、何をどのようにしたら良いのかわからない、というお悩みをお持ちの方も多いのではないのでしょうか。

本企画では、全6回の連続研修を通じて「子どものセーフガーディング」の国際基準について学び、各団体での実践を目指します。座学と並行して実際に取り組みを導入し、他の参加団体とともにその体験や悩みをフィードバックしながら進める伴走型の研修です。事前に企画説明会も行います。ぜひ一緒に学びましょう。

◇ ◇ 募集要項 ◇ ◇

1. 目的: 子どもの支援に携わる団体が「子どものセーフガーディング」を導入し、参加者相互の学びを通じてより効果的で機能的に実践を進めていくことを目指します

2. スケジュールと開催方法/場所:

回	日程	方法/場所	トピック(予定)
1	8月29日(火)	オンライン	概要、虐待・不適切行為、最低基準、アクションプラン
2	9月26日(火)	オンライン	行動規範、指針、リスク分析と削減
3	10月24日(火)	オンライン	性暴力の理解と予防
4	11月28日(火)	オンライン	人材管理
5	12月19日(火)	オンライン	広報活動、今後における
6	1月23日(火)	都内会場	各団体の取り組み共有、通報相談と対応の基本

※ 第1~5回は9:00~12:00、第6回は9:00~17:00の予定

3. 定員: 10団体(各団体から1~3名) 申込多数の場合は次ページの条件に沿って選考させていただきます

4. 参加費: 1団体につき30,000円(全研修一括)

5. 申込: 右サイトからお申込みください <https://forms.gle/q7HAHdGPgJg4JISJ8>

6. 〆切: 2023年7月30日(日)



7. 対象者および参加条件： 国内の子ども支援活動に携わっている NPO や民間団体、およびネットワーク等の役員や職員等を主対象とします。次の条件をご確認のうえ、団体単位でお申込みください。

- ✓ 所属団体において、子どものセーフガーディングの導入や強化の意欲があること。(参加者は、本研修と並行して、自団体の事情に添ったアクションプランを作り、ルールや制度作りなどを実践いただくこととなります)
- ✓ 原則として、6 回全ての連続研修に参加すること。やむを得ず出席できない場合には、代理の参加者を立てるか、資料や記録に目を通していただきます。
- ✓ 各団体から 2~3 名の参加を推奨します。(セーフガーディングの推進に影響力のある役員や幹部、管理職、担当者として制度作りや啓発を担う方、子どもと接する事業の責任者など)
- ✓ オンライン会議アプリ Zoom や、クラウドサービスを使った文書のやり取りを予定しています。そのためのオンライン環境は各自でご準備ください。アクセス・トラブルや IT 設定についてのご助言はいたしかねます。
- ✓ 第 6 回は都内の会場で対面形式の開催予定です。その旅費・宿泊費などは参加者負担となります。

オンライン企画説明会について

複数回にわたる研修のため、事前に企画説明会を開催し、参加に向けての質疑応答も行います。連続研修の申込をご検討されている方はぜひこちらの説明会にご参加ください。(連続研修は団体単位の受付ですが) 企画説明会は個人でもお申込み可能です。

※企画説明会は録画します。事後の動画視聴を希望する方も、こちらからお申込みください。

- 日時：** 2023 年 7 月 18 日 (火) 10:00~11:00
- 申込：** 企画説明会の申込はこちらから <https://forms.gle/rf11ne1BXUuY75Zu9>
- 〆切：** 説明会参加の申込は 7 月 17 日 (月) まで、動画視聴の申込は 7 月 26 日 (水) まで
- 参加費：** 無料



主催： 公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
問合せ先： 金谷 japan.csdesk@savethechildren.org
電話：03-6859-0070 内線 161 (月・火・木曜の 10:00-18:00)

子どものセーフガーディングとは

関係者による関係者による虐待や搾取など、子どもの権利に反する行為や危険を防止し、安心・安全な活動と運営を目指す組織的な取り組みです。疑念が生じた場合の対応と再発防止も含む包括的なものであり、組織の責任として向き合っていく必要があります。ここでは家庭内虐待についてではなく、事業やスタッフ・ボランティア等によって、主に事業の被益者に対してもたらす、あらゆるレベルの不適切な言動の防止に取り組みます。性的搾取・虐待は言うまでもなく、体罰や暴言、差別、ネグレクトなども含みます。故意か過失かは問いません。リスク削減や安全な事業設計から、人材採用、スタッフへの啓発、通報制度、疑念案件調査や人事処遇、再発防止までの幅広い要素からなり、包括的な取り組みが必要とされています。

参加団体に取り組んでいただくこと

この企画では、研修の場で学んだことを各団体に持ち帰り、自団体内の皆さんの理解を得ながら、活動実態に即したセーフガーディングの仕組みを作っていくことを目指します。そのため、連続研修の期間を通じ、参加者には以下のことを取り組んでいただく予定です。

- セーフガーディング実践のための取り組み計画づくり
- リスク分析とその軽減策の導入
- 行動規範やルールづくり
- 報告相談窓口と問題対応の体制づくり
- 団体内外のスタッフや関係者、子どもたちへの周知

これまでの研修参加者の反響

日頃から新聞などで虐待に関する情報を得ていましたが、知っておしまいではなく、これからは自分にできる取り組みや工夫など子どもを守るためにアンテナを張っていこうと思います。

研修の内容は、自分たちの活動の点検・改善をするうえで役立つものでした。オンライン参加では、普段なかなか接点を持たない遠方の団体の考え方などの一端に触れることができたことも、興味深かったです。

日々の活動の中で「良いこと」はすぐ言えても、「そうでないこと」はなかなか言いにくいと感じます。問題があったときなど、対応の所在をもっと分かりやすくする必要があると痛感致しました。子どもの気持ちに寄り添って、もう一度これからの行動を見直していきたいと思います。

個々人の意識を高めていくだけでなく、明文化されたポリシーや規範と、それを実効あるものにするための体制、教育、情報、制度をセットで考えて取り組む必要があると痛感しました。

子どもの最善の利益を守り、心豊かな成長・発達のために必要なことと再認識しました。また、子どもから高齢者のみならず、今後事業を実施するためにスタッフ同士でこのことを共有、胸に刻み、実施していきたいと強く感じました。